

平成18年7月13日

社団法人 日本建築学会

都市計画委員会委員長 西村 幸夫 様

建築歴史・意匠委員会委員長 吉田 鋼市 様

文京区企画政策部企画課長 徳田 隆  
文京区都市計画部参事 小野 孝道  
文京区土木部みどり公園課長 篠原 あや子  
(公印省略)

関東大震災復興事業の記念碑としての元町公園および  
旧元町小学校の保存に関する要望書 (回答)

元町公園が、公園と小学校が一体となった震災復興公園として、歴史もあり、優れたものであることは、文京区としても認識しています。

しかしながら、現在の元町公園については、高低差が多く、平地面積が少ないため、近隣の利用者からは、快適性や防災的な機能を求める要望も出されており、さらに、デザインを優先した結果、バリアフリー化が困難であるとともに見通しの悪いところにホームレスが常駐し、苦情も多く寄せられ、利用者が減少するなど、運営上の課題も多く抱えているところです。

また、公園に隣接した元町小学校は、平成10年4月に本郷小学校に統合され、残された校舎は現在、専門学校に貸し出されております。

したがって、復興公園の目的である、隣接した小学校の校庭との併設により、空地面積を確保し、校庭の延長としての近隣コミュニティの核として利用されるとの意味付けは、元町小学校廃校の時点で終えたと考えています。

一方、文京区基本構想には、「レクリエーション施設、スポーツ施設の整備・充実を図る。」ことが謳われており、法的に現地での建替えができない状況にある老朽化した湯島総合体育館の建替えは、緊急の課題となっております。

このため、体育館の建替え用地として元町小学校跡地を活用することとし、それに伴い、元町公園もより快適に利用しやすい、防災機能も備えた公園として一体整備を図ることとしています。不特定多数の人たちが利用する体育館と機能をより向上させた公園を一体整備するためには、現在の公園の位置を、小学校跡地側に移し、体育館を外堀通り側にする方がより適切と判断したものです。

また、体育館の整備に当たっては、公的な性格をもつ団体を対象に、プロポーザル方式による公募を行う予定にしています。

現在の元町公園が持っている、神田川沿いの緑の連携や歴史性については、プロポーザルの前提条件とし、可能な限り配慮するつもりです。